

# 筑西広域市町村圏

筑西広域市町村圏は、茨城県の西部に位置し、首都東京から75km圏、県都水戸市から50km圏にあり、結城市、筑西市、桜川市の3市で構成されています。

## 「筑西広域市町村圏」ってなに？

筑西広域市町村圏は昭和45年に一部事務組合を設立し、地方自治法による特別地方公共団体として機能しています。

広域消防及び救急業務、ごみ及びし尿の処理業務、筑西遊湯館、きぬ聖苑（火葬場・斎場）、県西総合公園の管理運営を行っています。

また、圏域の発展を目的とする「ふるさと市町村圏基金」を設置して、その果実（利子）によるソフト事業にも取り組んでいます。

## 「広域市町村圏」ってなに？

交通通信手段の発達に伴い、住民の日常生活圏域が市町村の枠を超えて広域化してきたため、国は昭和44年以降、地域の総合的な振興整備を図るために、広域市町村圏を設定して各種の整備を行ってきました。

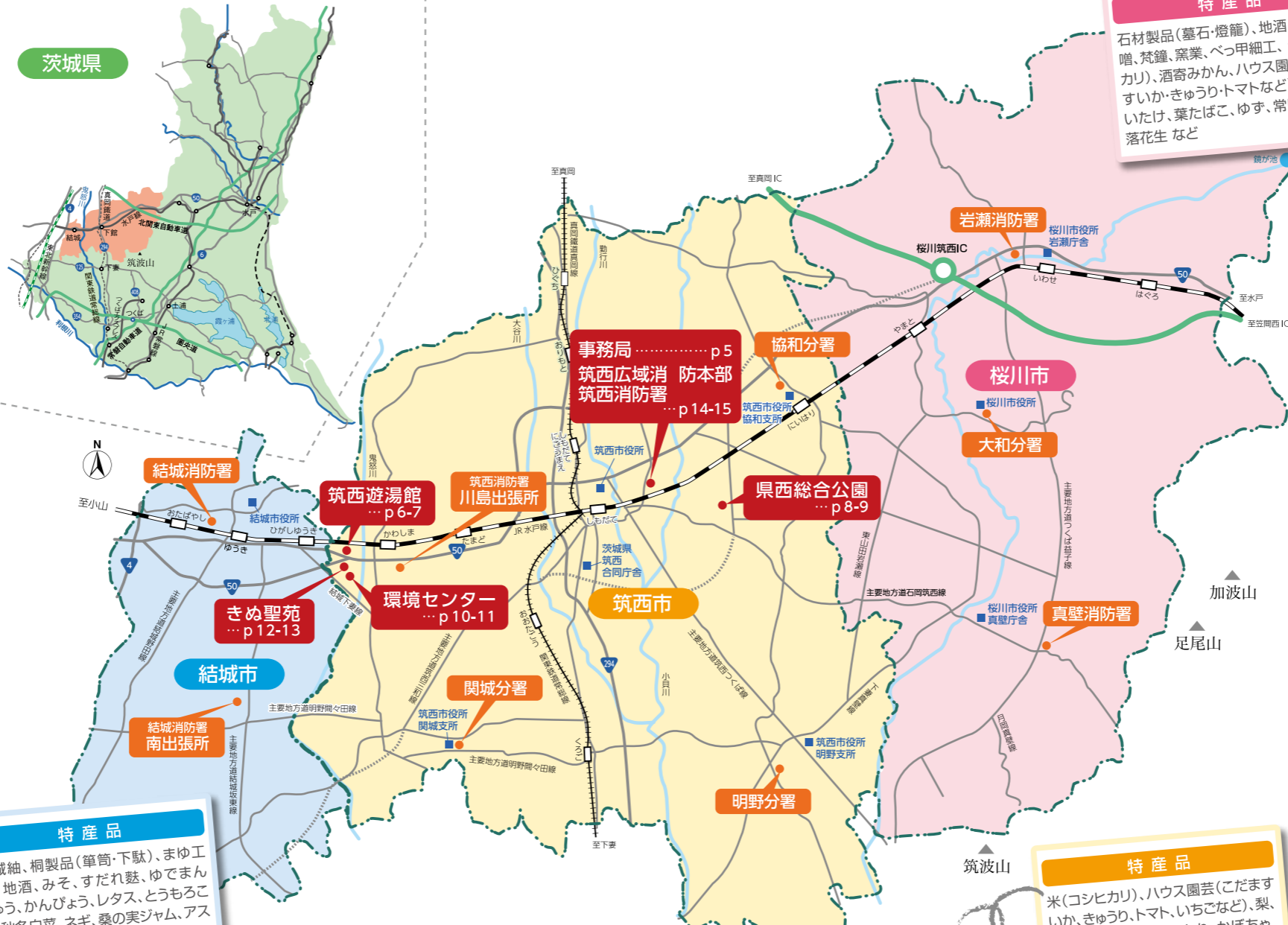
広域市町村圏では、各市町村が単独で整備を行った場合、多大の負担になるものと予測される消防、ごみ、し尿、老人福祉、火葬場、病院、介護保険などに関して、いくつかの市町村が集まって整備を図ることで、構成市町村の負担を軽減することが重要な役割となってきましたが、平成20年、国はこれまでの広域行政圏政策が当初の目的を達成したとして、今後は新たな施策に移行し、これからの広域連携は、各地域での自主的な活動によることを決定しました。



組合章

8つの円をつないだ円形の中に、筑西広域市町村圏事務組合の頭文字「T」をデザイン化したもの。

8つの円による円形は、組合設立時の構成8市町村の連帯と和を、「T」はあすへの限りない伸展と、8市町村の一体感を表す。



### 特産品

石材製品（墓石・燈籠）、地酒、醤油、味噌、梵鐘、窯業、べっ甲細工、米（コシヒカリ）、酒寄みかん、ハウス園芸（こだますいか・きゅうり・トマトなど）、ネギ、しいたけ、葉たばこ、ゆず、常陸秋そば、落花生 など

## 桜川市

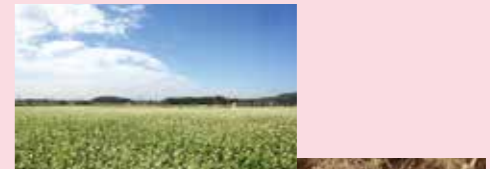
桜川市は、平成17年10月1日に岩瀬町・真壁町・大和村の2町1村の合併により誕生いたしました。

三方を阿武隈山系の山並みに囲まれ、市の中央部を南北に市名の由来となった「桜川」が流れており、緑豊かな自然環境に恵まれています。

平成20年には、北関東自動車道桜川筑西ICが整備され、交通の要衝としても更なる発展が期待されています。



真壁石燈籠



常陸秋そば



落花生

写真提供：桜川市商工観光課

### 特産品

結城紬、桐製品（筆筒・下駄）、まゆ工芸、地酒、みそ、すだれ麩、ゆでまんじゅう、かんぴょう、レタス、とうもろこし、秋冬白菜、ネギ、桑の実ジャム、アスター など

## 結城市

古くから城下町として栄えた結城市は、歴史と伝統を継承するまちで、現在でも商店街には蔵造りの建物が散在しており、結城紬の産地としても全国的に有名です。

また、国道50号線沿線は各種店舗が林立し、活気にあふれ、今後の発展性を象徴する結城の新しい顔となっています。

写真提供：結城市観光協会



結城紬



結城蔵美術館



ゆでまんじゅう

## 筑西市

筑西市は、平成17年3月28日に下館市、関城町、明野町、協和町の1市3町が合併し誕生しました。

鬼怒川・小貝川などの河川や筑波山を望む美しい景観、祇園祭り、市内に伝承される伝統行事、優れた文化人を育ててきた風土、関城跡や新治廃寺跡などの史跡があります。

写真提供：筑西市観光協会

### 特産品

米（コシヒカリ）、ハウス園芸（こだますいか、きゅうり、トマト、いちごなど）、梨、そば、にら、小菊、ひまわり、かぼちゃ、レタス、なす、ほうれん草、玉ねぎ、豚肉（キングポーク）、牛肉（紫峰牛）など



米(コシヒカリ)



こだますいか



梨